

【報告者】 時村健太	
(学年) 6年生	【教科・単元名など】 ソフトバレーボール
<p>【実践内容】</p> <p>学習のねらい</p> <p>基本的な技能を身につけ、みんなで力を合わせて、ルールを工夫したり、チームにあった作戦を立てたりして、ゲームを楽しむ。</p> <p>めあて1・・・ルールやチームの仲間になれ、協力してバレーボール型のゲームを楽しむ。</p> <p>めあて2・・・チームにあった作戦を考えたり、練習したりしてチーム力を高め力のあったチームに挑戦してゲームを楽しむ。</p> <p>めあて3・・・まとめのトーナメント戦を楽しむ</p> <p>○ 学習のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判はセルフジャッジで行う。 <p>【主なルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15点先取もしくは7分間を1セットとして2セット1ゲーム。 ・ ラリーポイント制 ・ サーブは2回まで。(1回失敗してもいい。) ・ 返球は2回から5回まで。(サーブを1回でかえすのは反則) ・ 一人で連続(ドリブル)は反則 ・ ローテーションあり。 ・ コート内には4人。 ・ ブロックのオーバーネットあり。 ・ ホイッスルの前のプレーまで有効。 ・ タッチネット、オーバーネットは厳しく取らないが、相手のじゃまをするなど悪質な場合は反則。 <p>【取り組みとして】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初は時間配分を分かりやすくするために、試合中に音楽をかけていた。セット制になり必要ないと思われたが、音楽をかけているときとかけていないときの声かけや動きが、まるで違ったため、現在は試合中に音楽をかけている。 ・ チームを6人にして(男子3女子3)ローテーションを行っている。チーム編成は身長を約150CMにすることで差がないよう意識させた。 ・ ネットの高さは185CMのバドミントン用コートを使っている。これはアタックを意識させたいためであり、アタックをとんで打ってほしいというねらいがある。 ・ セッターはボールを持ってもいいことにした。そうすることでアタックを誰もが打てる体制を作った。 ・ アタックが打てることでブロックやフェイントといった技術の向上が見られた。また作戦の多様化が見られるようになった。 	
<p>【反省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽は当初のねらいとは違った方向に行ってしまった。単元最初からかけない方がよかった。ただ、苦手意識がある児童には思った以上に意欲があがるということもわかった。使い方工夫すればもっと効率的にできるかも知れない。 ・ セッターが持つことは『ボールをつなぐ』意識が薄れていく危険もある。そのためには基本的な技術力を上げる必要がある。つまり時間がかかる。 ・ 返球の回数を5回ではなく、3回にすることで実際のバレーボールにつなげたかったが、そこまでできなかった。初めから3回を意識させるのもいいかも知れない。 	

